

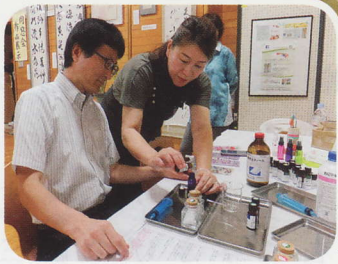
九里祭参加

同窓生作品展

8/29



押し絵作品



アロマオイルコーナー

今年も小体育館が会場でした。上山在住のS13年卒の佐竹イセノさん(旧姓小林)の素晴らしい百人一首の押し絵をはじめ、飯豊支部の方々の作品や、県展入選の絵画や書、フラワーアレンジメント、生け花など、同窓生らしい大作がそろいました。

また、H2年卒の伊藤典子さん(旧姓平田)によるアロマオイルで世界にひとつの自分の『香』を調合する体験コーナーでは、年代を越えて大盛況でした。

来場者のみなさんに喜んで頂き、素敵な“ひととき”の空間を作ることが出来たと思います。

「常にめづらしき」

女性になって下さい

春山に山菜を、秋山に茸を採り、畑を耕して野菜作りに精を出し、草花を咲かせ、川辺に小鮒や鮠を釣り、時に大鯉を狙って夜釣りに興じ、読書を楽しみ、世情に欣喜雀躍したり悲憤慷慨したりしています。老人家庭の見守り、古典の講座等、地域や町内の事も多く、恩返しをしています。先日、古典を題材に老化防止の話をしました。

難波人葦火たく屋の煤してあれど
己が妻こそ常にめづらしき

万・巻十一・二六五五

察を致します。

独活蕨山の恵みを谷深く

藪鷲を聞きつつ探る

苗さす日照る斜平山雪白し

いよ里にも降り積むらんか

皆様御元気で日々御活躍の事と拝

大野 崇 先生



お久しぶりです 皆様

海辺に生い茂る葦を薪にして燃やしているので、家が煤けているように新婚当初は可憐だった妻も何年か経つうちに所帯じみて煤けた感じになってきた。そりやそうだが、俺の妻はやっぱり新鮮な魅力があるなあ。

年老いても「常にめづらしき」と夫から激賞された妻、彼女は強い信念を持ち、世の中のあらゆることに興味や関心を示し、情熱的に前向きに生活する女性だったのでないでしょうか。そんな妻の魅力に気付いた夫も、妻と同じような生き方をしていた人だと考えられます。皆様も御身大切に、いつまでも若やいで元気のある、「常にめづらしき」女性であって下さい。

